



613-000686 Rev.H 110210



最初にお読みください

CentreCOM® AR260S V2 リリースノート

この度は、CentreCOM AR260S V2 をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書（613-001298 Rev.A）、リファレンスマニュアル（613-000685 Rev.F）および設定例集（613-000902 Rev.F）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 3.3.2

2 本バージョンで仕様変更された機能

ファームウェアバージョン 3.3.0 から 3.3.2 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が仕様変更されました。

2.1 PPPoE ユーザー名 / パスワード：使用可能文字種



「リファレンスマニュアル」/
「3 WAN 側インターフェースの設定」/
「3.3 PPPoE を使用した WAN 側ネットワークへの接続」

PPPoE 接続におけるユーザー名およびパスワードに使用できる文字種が変更され、前バージョンまで使用できなかった下記の記号が使えるようになりました。

\$ ' * / ; < > ` |

この変更を反映するためには、本製品のファームウェアをバージョンアップした後に、Web ブラウザーのキャッシュをクリアする必要があります。

3 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 3.3.0 から 3.3.2 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 アクセス制御にてプロトコルを指定して追加する場合、一部のプロトコル番号において、「No such command」エラーが表示され、追加できませんでしたが、これを修正しました。
- 3.2 ENAT を設定した構成において、NAT プールにインターフェースの IP アドレスが含まれていた場合、WAN 側への通信が行えませんでした。これを修正しました。
- 3.3 NAT 環境にて、LAN 側に設置した FTP サーバーを WAN 側から FTP PASV モードで利用できず、本製品に以下のログが記録されることがありましたが、これを修正しました。


```
FLT [054]: Failed to parse FTP command: 227 Entering Passive Mode (192,168,1,100,7,3).
```

- 3.4 「システム管理」 - 「サービスの有効 / 無効」の設定画面でファイアウォールを無効に設定しているにもかかわらず、追加の PPP セッションを新規作成した場合、新規作成した PPP セッションのみに対してファイアウォールが動作することがありましたが、これを修正しました。
- 3.5 IPsec 環境にて TCP out-of-order が発生することがありましたが、これを修正しました。
- 3.6 VPN 接続において、ISAKMP ハートビート機能を無効に設定した状態で、ハートビートパケットを受信すると、IKE 関連のプロセスが異常終了したり、VPN 設定が消失することがありましたが、これを修正しました。

4 本バージョンでの制限事項


ファームウェアバージョン 3.3.2 には、以下の制限事項があります。

4.1 PPPoE インターフェース複数使用時の IPsec 経路変更

 [「リファレンスマニュアル」](#) /
[「3 WAN 側インターフェースの設定」](#) /
[「3.3 PPPoE を使用した WAN 側ネットワークへの接続」](#)


PPPoE インターフェースを複数設定し、仮想トンネルインターフェースを使用する IPsec 環境において、IPsec 対向機器に対する経路（ルーティングテーブル）を変更する場合は、一度「切断」ボタンを押して PPPoE インターフェースを切断してから行ってください。

4.2 MSS クランプ値の手動設定時の MSS 値

 [「リファレンスマニュアル」](#) /
[「3 WAN 側インターフェースの設定」](#) /
[「3.6 \[WAN\] ページの解説」](#)

WAN 側インターフェースの設定において MSS クランプ値を手動設定にした場合、MTU 値が 1454Byte 以外の時に MSS 値が正しく設定されることがあります。そのため、自動設定を使用するか、正しい MSS 値になるように MSS クランプ値を調整してください。

4.3 DNS リレー関連のログメッセージ

 [「リファレンスマニュアル」](#) /
[「3 WAN 側インターフェースの設定」](#) /
[「3.3 PPPoE を使用した WAN 側ネットワークへの接続」](#)

DNS リレーの問い合わせ先を自身の WAN 側インターフェースの IP アドレスに設定している場合に、LAN 配下のコンピューターから本製品の LAN 側インターフェースの IP アドレス宛に DNS クエリーパケットを受信した際、本製品に次のようなログメッセージが記録されます。

```
Aug 03 14:26:31 PMON [007]: [named] terminated unexpectedly. Restarting
Aug 03 14:26:31 PMON [008]: [named] restarted
Aug 03 14:28:07 PMON [007]: [named] terminated unexpectedly. Restarting
Aug 03 14:28:07 PMON [003]: Abandoned [named]
```

これを回避するには、DNS リレーの問い合わせ先を、本製品の WAN 側インターフェースの IP アドレス以外に設定してください。

4.4 デフォルトルートの出力インターフェース



「リファレンスマニュアル」/
「6 VPN の設定」/
「6.2 VPN の設定」

トンネルインターフェースを利用した IPsec 構成において、デフォルトルートの出力インターフェースをトンネルインターフェースにしている場合、WAN 設定の内容を変更すると、デフォルトルートの出力インターフェースが、PPPoE インターフェースに変更されてしまいます。「ルーティング」設定にてデフォルトルートの出力インターフェースを再設定してください。

5 取扱説明書・リファレンスマニュアルの補足

取扱説明書（613-001298 Rev.A）、リファレンスマニュアル（613-000685 Rev.F）および設定例集（613-000902 Rev.F）の補足事項です。

5.1 PPPoE 接続時の DNS オプションの自動取得



「リファレンスマニュアル」/
「3 WAN 側インターフェースの設定」/
「3.3 PPPoE を使用した WAN 側ネットワークへの接続」

「WAN 設定」の接続モード「PPPoE」において、DNS オプションを固定設定にした場合、自動取得に設定し直しても DNS 情報が削除されません。これを回避するには、かんたん接続により PPPoE の設定を再度行うか、設定を初期化した後に再設定を行う必要があります。

5.2 NAT 経由でのリモートデスクトップ接続



「リファレンスマニュアル」/
「5 ファイアウォール/NAT の設定」

リモートデスクトップ接続を行っている際に、リモートデスクトップの操作を長時間行っていない場合、通信が切断される場合があります。これを回避するには、リモートデスクトップ接続を行う端末同士で、Window Scale Option を使用しないようにする必要があります。

6 取扱説明書とリファレンスマニュアルについて

最新の取扱説明書（613-001298 Rev.A）、リファレンスマニュアル（613-000685 Rev.F）および設定例集（613-000902 Rev.F）は弊社ホームページに掲載されています。本リリースノートは、上記の取扱説明書、リファレンスマニュアルおよび設定例集に対応した内容になっていますので、お手持ちの取扱説明書、リファレンスマニュアル、設定例集が上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>